

厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）
分担研究報告書

HIV 領域のコンサルテーション・リエゾン精神医学診療体制の調査開発に関する研究

研究分担者 木村 宏之 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野 准教授

研究協力者 徳倉 達也 名古屋大学医学部附属病院精神科 講師
小笠原 一能 名古屋大学医学部附属病院卒後研修キャリア形成支援センター 助教
長島 渉 名古屋大学総合保健体育科学センター保健科学部 助教
岸 辰一 名古屋大学医学部附属病院医療技術部 心理士
安尾 利彦 大阪医療センター臨床心理室 心理士

研究要旨 身体疾患の患者に併存する精神医学的問題を解決するコンサルテーション・リエゾン精神医学は、身体疾患患者のケアについて有効なエビデンスがあるにもかかわらず、HIV 感染者の併存精神疾患については、HIV 診療チームと精神医療チームの連携体制の構築が十分とは言えない現状がある。本研究では、シームレスな精神医療の提供を目指すため、医療者のアンケート調査および半構造化面接を用いて、その要因について探索し、良好な連携構築のために HIV 領域および精神医学領域に広く啓発する。

A. 研究目的

抗 HIV 療法の進歩とともに、HIV 感染者の予後は大きく改善した。抗 HIV 治療ガイドラインも大きく貢献しているが、身体治療のみならずメンタルサポートも重視されている。このような中、HIV 感染者に精神医学的介入を要する精神疾患が約 9%程度併存し、かつ 30%という高い中断率が明らかになり、ノンアドヒアランス、生活習慣、就労等心理社会的側面に影響を及ぼすことが明示されている（日本エイズ学会誌 2018）。また、抗 HIV 療法の遂行を妨げ、脱落する要因に、精神疾患や偏見やアドヒアランスなどが抽出されている（Lancet 2018）。さて、身体疾患の患者に併存する精神医学的問題を解決するコンサルテーション・リエゾン精神医学は患者ケアに効果がある（Cochrane Library 2015）にもかかわらず、

HIV 感染者の併存精神疾患について、HIV 診療チームと精神医療チームの連携体制の構築が十分とは言えない現状がある。本研究の目的は、シームレスな精神医療の提供を目指すため、医療者のアンケート調査および半構造化面接を用いて、その要因について探索し、啓発することを目的とする。

B. 研究方法

全国の HIV 診療拠点病院に勤務する心理士を対象に以下の手順ですすめる（比較対照群に総合病院に勤務する心理士を設定）。まず、年齢、性別、経験年数、HIV 領域の経験年数、勤務形態、（直近 1 年間の）併存精神疾患担当数、WHO 健康と労働パフォーマンスに関する質問紙（短縮版）、Short Form36 など取得する。半構造化面接で「HIV 感染者の併存精神疾患について、HIV 診療チームと精神医療チームの連携体

制」を阻害する要因（複数回答可）について以下を聴取する。①「HIV 診療科内における心理士と内科医との連携困難」 ②「HIV 診療と精神医療との連携困難（同一施設内の精神科連携）（病診連携/病病連携）」 ③「HIV 診療科の心理士と精神科医との連携困難（初診）（併診中）（再初診）」 ④「HIV 感染者に併存する精神疾患患者の診断」 ⑤「HIV 感染者に併存する精神疾患患者の治療」 ⑥「HIV 感染者に併存する精神疾患患者の服薬アドヒアランス（向精神薬のみならず内科薬も含む）」また、各項目について最も困難な状況を 10 としてそれぞれに関する困難度を 0 から 10 で明示する。

次に、面接内容をグラウンデッド・セオリー・アプローチ (Grounded Theory Approach ; GTA) を用いてカテゴリー化し、Delphi 法により、阻害要因について明確化する。

(倫理面への配慮)

多施設共同研究体制、研究内容、個人情報保護等に十分考慮した研究計画を立案し、名古屋大学大学院医学系研究科及び医学部附属病院生命倫理審査委員会で 2021 年 12 月 10 日に承認 (承認番号 2021-0354) された。

C. 研究結果

HIV 領域の併存精神疾患に関する医療連携については先行研究が乏しく、HIV 感染者の併存精神疾患の特性について先行研究を調査し、HIV 領域の精神疾患に対する医療連携の研究計画を立案し、生命倫理委員会の承認を得た。現在、HIV 領域心理士についてリクルート中である。比較対照群心理士について既に 40 名より研究の内諾が得られている。これからインタビューが開始されるため、インタビューの研究結果はない。

D. 考察

なし。

E. 結論

進捗状況は遅延しているが、来年度以降、十分な結果が得られるよう尽力していく。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Mariko Nakamura, Akira Yoshimi, Akihiro Mouri, Tatsuya Tokura, Hiroyuki Kimura, Shinichi Kishi, Tomoya Miyauchi, Kunihiro Iwamoto, Mikiko Ito, Aiji Sato-Boku, Norio Ozaki, Toshitaka Nabeshima, Yukihiro Noda Duloxetine attenuates pain in association with downregulation of platelet serotonin transporter in patients with burning mouth syndrome and atypical odontalgia Hum Psychopharmacol Sep20:e2818, 2021

Masato Shizuku, Hiroyuki, Kimura, Hideya Kamei, Shinichi Kishi, Tatsuya Tokura, Nobuhiko Kurata, Kanta Jobara, Atsushi Yoshizawa, Chisato Tsuboi, Naoko Yamaguchi, Midori Kato, Keita Kawai, Makoto Yamashiki, Emi Kanai, Kanako Ishizuka, Norio Ozaki, Yasuhiro Ogura Psychosocial characteristics of alcoholic and non-alcoholic liver disease recipient candidates in liver transplantation: a prospective observational study BMC Gastroenterol Nov 29;21(1):449-458,

2021

西村勝治、井上真一郎、大橋綾子、岡田剛史、桂川修一、木村宏之、小林清香、成田尚、中西健二、松本洋輔 臓器移植希望者（レシピエント）の心理社会的評価に関する提言 総合病院精神医学 33(3): 245-382:2021

2. 学会発表

木村宏之 シンポジウム「これからの精神医療における精神分析的な精神医学の役割」
コンサルテーション・リエゾン精神医学 第 117 回日本精神神経学会学術総会 2021 年 9 月 京都

木村宏之 シンポジウム「COVID-19 時代の精神分析臨床」 COVID-19 時代の精神療法 第 117 回日本精神神経学会学術総会 2021 年 9 月 京都

木村宏之 医療問題委員会・臨床心理委員会合同企画「精神分析的理解に基づく応用的実践」について考える コンサルテーション・リエゾン 日本精神分析学会第 67 回大会 2021 年 11 月 WEB 開催

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし